

東京オリンピック・パラリンピック競技大会における  
新型コロナウイルス感染症対策調整会議（第6回）

議事概要

1. 日時

令和2年12月2日（水）17：45～18：15

2. 場所

総理大臣官邸2階 大ホール

3. 出席者

（議長）

杉田 和博 内閣官房副長官（事務）

（議長代行）

藤井 健志 内閣官房副長官補（内政担当）

（副議長）

多羅尾光睦 東京都副知事

武藤 敏郎 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会事務総長

平田 竹男 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部  
事務局長

吉田 学 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長

（構成員）

山路 栄作 内閣官房内閣参事官（国家安全保障局）【代理出席】

寺岡 光博 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）

藤原 章夫 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部  
事務局総括調整統括官

梶尾 雅宏 内閣官房内閣審議官（新型コロナウイルス感染症対策推進室）

高嶋 智光 出入国在留管理庁次長

齊藤 純 外務省東京オリンピック・パラリンピック要人接遇事務局長

藤江 陽子 スポーツ庁次長

正林 督章 厚生労働省健康局長

荒井 勝喜 経済産業省大臣官房総括審議官

西山 智之 東京都総務局次長【代理出席】

中村 倫治 東京都オリンピック・パラリンピック準備局長

|       |   |
|-------|---|
| 福崎 宏志 | 東京都オリンピック・パラリンピック準備局理事(東京 2020 大会保健医療担当)              |
| 吉村 憲彦 | 東京都福祉保健局長   |
| 初宿 和夫 | 東京都福祉保健局健康危機管理担当局長                                    |
| 中村 英正 | 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会<br>ゲームズ・デリバリー・オフィサー   |
| 伊藤 学司 | 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会<br>チーフ・ファイナンシャル・オフィサー |
| 山下 聡  | 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会<br>大会運営局長             |
| 岩下 剛  | 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会<br>警備局長               |
| 神田 昌幸 | 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会<br>輸送局長               |
| 福井 烈  | 公益財団法人日本オリンピック委員会専務理事                                 |
| 河合 純一 | 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会委員長                     |

(アドバイザー)

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 岡部 信彦 | 川崎市健康安全研究所長         |
| 齋藤 智也 | 国立保健医療科学院健康危機管理研究部長 |

#### 4. 議事概要

○冒頭、杉田内閣官房副長官より挨拶。

##### 【杉田内閣官房副長官】

本日は、本当に忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今年9月以降、アスリートが万全のコンディションの下でプレーを行い、観客が安全かつ安心してそのプレーを楽しめるという大会運営を実現する観点から、これまで5回にわたって会議を開催いたしました。アスリート、大会の関係者、観客の3つのカテゴリーに分けて、それぞれの行程の場面ごとに一つ一つ様々な課題について、検討かつ熱心な議論を重ねてまいりました。

本日の会議では、これまでの検討結果として、中間整理の案を皆様方に御提示いたします。この点について、熱心な御検討、御議論をいただくよう、よろしく願いいたしたいと思っております。

また、この中間整理の中では、今後の対応工程表も整理いたしておりますので、今後はこうしたスケジュールに即して、実務的・実効的な対策を進めていく必要があるところであります。

来年の夏、安全・安心な大会が実現するように、引き続き皆様方の御理解、御協力を心からお願い申し上げます。

○議事1について、内閣官房オリパラ事務局から資料1～資料2に基づき、「中間整理(案)」につい

て」説明があったのち、多羅尾副知事及び武藤事務総長より発言。

【内閣官房オリパラ事務局 藤原総括調整統括官】

資料2を御覧いただきたいと思います。中間整理案についてでございます。

まず、表紙をめくっていただきまして、全体の目次でございます。「第1章 はじめに」、「第2章 具体的な対策」、「第3章 今後の対応工程表」という形になっております。第2章の具体的な対策につきましては、これまでの5回の会議で御議論いただいたものをベースにしながら、検討となっていた部分について、内容が固まったものは字句を修正するなどの変更を加えたものでございます。

6ページをお開きいただきたいと存じます。アスリート等の出入国措置についてでございますけれども、「2. 対応」のところでアスリート用オリパラ準備トラックの運用を開始したことを記述するとともに、今後の東京大会本番に係る入国措置について、オリパラ準備トラックを基本として調整をしているという記述を追加してございます。

続いて、8ページを御覧いただきたいと思います。(4)の①でございますけれども、基本的な感染防止の視点から、フィジカル・ディスタンスの確保として、アスリートと接触する人はアスリートと原則2メートルの距離を確保することを明記してございます。

続いて、9ページを御覧いただきたいと思います。こちらは選手村等の記述でございますけれども、中ほど少し下に「③選手村の滞在期間の調整」がございまして、感染リスクを低減することを目的とし、競技終了後速やかに退村するなど、入退村のタイミングを調整し滞在時間を短縮する。退村後については、ホストタウンでの事後交流を除き、速やかに帰国する旨をルール化するといった記述を追加してございます。

続いて、15ページでございます。アスリート等の検査についてでございます。検査の実施方法について記述を具体化しております。2つ目の○でございますけれども、事前キャンプ地・ホストタウン等における検査について、入国時検査実施後、96時間から120時間経過時、及び選手村入村72時間前をめどにスクリーニング検査を行うこと。それから、3つ目の○でございますけれども、選手村における検査ということで、選手村滞在中も原則として96時間から120時間の間隔で定期検査を実施すること。また、検査で陽性となった場合、直ちに再検査を行うということを記述しております。また、一番下の○でございますけれども、検査に当たっては選手村内に検体採取センター、検査分析設備を整備することといたしております。

続いて、19ページでございます。こちらは競技別対策・ルール（陽性者発生時の競技運営の在り方）についてでございますけれども、下の(2)でございますが、感染者発生時においても競技が円滑に実施されるよう、こうしたルールを6月までに最終確定させるということを記述しております。

次に、21ページでございます。パラアスリート等の感染防止策でございます。3の①でございますけれども、パラアスリートの感染防止のガイドラインを明記してございます。

次は27ページ、観客でございます。「3. 外国人観客の取扱い」の下から2つ目の○でございますけれども、入国前の検査・健康管理や入国時の検査・誓約書等の確認、入国後の行動管理・健康管理などにつきまして、全体を通じて対応できるようなアプリの導入について検討を行うことを記述してございます。

それから、31 ページ、聖火リレーの部分でありますけれども、「3. 具体的な対策の方向性」の「2 場面別の対策」で「①リレールート沿道」がございますが、この中に著名人ランナー等の対策という規定事項を追記してございます。

以上が主な変更点でございますけれども、43 ページ以降では今後の工程表を記載してございます。対策の主な担当を国、東京都、組織委員会として、それぞれごとに色分けをして期日を明記しておるものでございます。

最初の3 ページに戻っていただきまして、「はじめに」の部分でございますけれども、「3. 今後の対応」で最初に○がございますが、今後、以下の課題等について取扱いの詳細を定める必要があるという事項を列挙してございます。

アスリート等に係る検査の実施方針。

組織委員会感染症対策センター（仮称）と保健衛生の拠点機能等の具体化。

陽性者の入院・宿泊療養体制の確保。

陽性者発生時の競技運営の在り方。

大会関係者や観客の取扱い（観客上限、外国人観客）に係る具体的な措置。

マラソン・競歩等、公道等で行われる競技における観客の感染症対策。

聖火リレー・ライブサイトにおいて混雑・密集を避けるための対策。

開閉会式におけるアスリート等の感染症対策。

ワクチンが利用可能となった場合の対応といった事項を掲げているところでございます。

なお、資料1といたしまして、中間整理の概要を添付してございますので、適宜御参照いただければと思います。

説明は以上でございます。

#### 【東京都 多羅尾副知事】

東京都でございます。ありがとうございます。

まず初めに、直近の東京都の感染症対策について申し上げます。

御承知のとおり、都内でも感染が急速に拡大しており、特に重症化リスクの高い高齢の感染者数が増加し、重症者数も高い水準で推移するなど、予断を許さない状況でございます。本日の重症者数は59名で、昨日から3名減ってはおりますが、非常に厳しい状況でございます。

この正念場を早期に乗り越えるため、11月28日から酒類を提供する飲食店とカラオケ店に営業時間の短縮を要請するとともに、都民の皆様には不要不急の外出を控えていただき、外出する場合は感染の予防と対策に万全を期すようお願いをしているところでございます。引き続き「感染対策短期集中」であらゆる対策を講じてまいります。

本日の会議では中間整理が行われることとなっておりますが、まずは、国におかれまして、9月の本調整会議の設置以来、この間、関係者一体となった検討を主導していただき、本日、このような運びになっていることについて深く感謝申し上げます。

また、組織委員会におかれましては、大会運営の主体として、多岐にわたる項目の一つ一つについて検討を重ね、IOC や IF など関係者との調整を前進させていただいていることに感謝申し上げます。

そして、JOC の福井専務理事、JPC の河合委員長におかれましては、アスリートの立場から現場の声に根差した御意見をいただき、また、岡部先生と齋藤先生におかれましては、専門的な視点からの貴重な御意見をいただき、都といたしまして厚く御礼を申し上げます。

今回の中間整理により、大会の開催に向けて取り組んでいくべき課題が明確になり、関係者間での共有も図られてまいりましたので、今後はこれをベースに、より具体の対策について実務ベースでの検討を加速していく必要があると考えております。

都といたしまして、今後も保健衛生の拠点機能等の具体化やラストマイルにおける対策など、都として主体的に検討を進めていかなければならない項目についてはもとより、アスリート、大会関係者、観客など全ての方々にとって安全・安心な環境の構築に向けて、引き続き関係者の皆様と一体となって取り組んでまいりたいと考えております。

開催都市として、「大会の安心・安全」と「地域の安心・安全」の両立を実現し、大会を成功させていくため、全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

#### 【組織委員会 武藤事務総長】

新型コロナウイルス感染症対策調整会議の中間整理の取りまとめに際しまして、まず、議長の杉田副長官、議長代理の藤井副長官補をはじめ、関係省庁の皆様、専門家の皆様、東京都の皆様に対し、組織委員会を代表いたしまして、まず御礼を申し上げたいと思っております。

大会延期という歴史上初の状況に直面し、コロナ対策という誰も経験をしたことがない内容の検討を進めるに当たり、アスリートの安全・安心を中心に、3か月という短期間で対策の方向性を整理できたことは、皆様の御尽力あつての賜物と考えます。

今後に関しまして、まずアスリートにつきましては、検査を含む選手村における医療・保健体制の整備など、安全・安心な大会の肝となる条件整備に早急に着手し準備を進めたいと考えております。

また、例えばメディアなどのアスリート以外の大会関係者につきましても、出入国の条件の整理など、今後早急に論点を詰めるべき事項があると考えられます。本中間整理におきまして、アクレディテーションをもって入国するプロセスにおいて適切な防疫措置を講ずることや、14日間の自宅待機や公共交通機関の不利用に係る検討が必要な場合には、各国の感染状況により求められる防疫措置と職務上の要請に係る双方の観点を踏まえた上で、十分な安全性の担保が必要であり、具体的には今後検討とされました。

大会関係者はそれぞれの任務があり、これを遂行するには自宅待機や公共交通機関不利用というのは困難であるとそれぞれの関係者から言われておりますので、引き続き安全性の担保の在り方について協議・検討をお願いいたします。

ワクチンにつきましては、第1章にもありますとおり、今後利用可能になった場合の対応について議論を進める必要があると考えております。

さらに、東京都以外の関係自治体の協力を得るべき事項等も早急に整理し協議を進める必要があると考えられます。

以上の検討・準備の推進に当たっては、関係の皆様を引き続きの御協力をぜひお願いしたいと思います。

前回のコロナ調整会議の直後、11月16日から18日に開かれましたIOC・IPCによる合同のプロジェクトレビューでも、IOCのバッハ会長及びコーツ委員長、IPCのパーソンズ会長から、コロナ対策の詳細な検討が進んでいることに高い評価と感謝の言葉が述べられました。バッハ会長は総理、都知事とも面会され、直接大会に向けた連携を固めたと承知しています。

この会議に参加している3者に加え、IOC、IPCを加えた5者によるセッションも設け、大会関係者の出入国条件や検査の在り方、選手の選手村の滞在期間の短縮について問題意識を共有いたしました。また、開会式の簡素化についても、コロナ対策の観点から従来のオリンピック・パラリンピックの前例にとらわれない対応をIOCやIPCに対して求めました。

大会まではあと8か月ですが、春には聖火リレーやテストイベントが始まります。また、事前キャンプ・ホストタウンの実施場所・時期等も固まり、観客関係の方針決定も予定されております。

年明けからも引き続き本会議を活用し、来年の安全・安心な大会の実現に向け取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きの御協力・御尽力をお願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

○議事2について、出席者よりそれぞれ発言。

【日本オリンピック委員会 福井専務理事】

オリンピック委員会です。

まず、この会議におきまして、これまで現場の意見をたくさん聞いていただきました。本当にありがとうございます。JOCの要望も踏まえて、アスリート用オリパラ準備トラックの運用を開始いただくなど、アスリートを最大の主役として位置づけ、最優先で検討を進めていただきましたことに心から感謝を申し上げます。

トータルでの環境整備、ルールづくりという観点で、出入国から移動、検査、保健衛生、ホストタウン等と体系立てた具体的な整理を行っていただいたことは、アスリートたちの安心につながり、それが競技に集中できる環境になります。

今後の課題として挙げられました開閉会式対応など、大会までに取り組まなければならない課題も多くあると思います。我々としても、現場の声を国、東京都、組織委員会の皆様、関係者の皆様にお伝えして、引き続き協力をしていきたいと思っております。

年が明けると、オリンピックイヤーです。現在、全実施競技の強化責任者と最新情報を共有する東京2020強化ミーティングをオリンピック開幕まで月例で開催しています。皆様の期待にお応えできるように、選手強化についてもNFの皆さんと共にしっかりと取り組んでいます。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【日本パラリンピック委員会 河合委員長】

日本パラリンピック委員会です。

まず、本日、中間整理をおまとめいただきまして、本当にどうもありがとうございました。政府、

東京都、組織委員会、JOC や我々JPC、そして、専門家の先生方と共にこのようなまとまった方向性や道筋をお示しいただいたことに、本当に心からお礼を申し上げたいと思います。

これまでの議論の中で、アスリートを主役としていただきながら、様々な視点から検討を実施していただきましたし、特にパラアスリートに対する御配慮につきましても調整をいただいたことに、重ねてお礼を申し上げたいと思っております。

この対策調整会議が始まった9月の当初は、まだ大会の開催について不安がっているアスリートも多かったと感じておりますけれども、この会議が進捗し、その情報を見聞きすることを通して、選手たちも集中しながらトレーニングに取り組めるという環境になってきていると思っております。

来年のオリパラ大会を通して、世界中に勇気と希望を届けていく。これは我々開催国の選手団をつかさどる JOC や JPC としても本当に取り組んでいかなければならない大きな役割の一つであると感じております。

今後、改めてパラアスリートの特性とか障害、そして、競技の特性等も踏まえた対策、そして、スタッフの感染症対策のガイドラインなど検討をさらに続けていくこととなりますので、引き続き意見交換をしながら進めていければと思っておりますし、我々JPC といたしましても、全力で全面的にガイドライン作成に向けて共に取り組んでいければと考えております。

引き続き安全・安心な大会の実現に向けて全力で取り組んでいきますので、引き続きの御支援をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

#### 【川崎市健康安全研究所 岡部所長】

岡部です。ありがとうございます。

大変だったと思いますが、中間報告をまとめていただいて、ありがとうございます。

東京都からの御報告もありましたように、確かに現状としては緊張感を持って見ていかなければいけない段階ですけれども、多くの方に御協力いただいて少しでも横向きないし下向きに、できればうんと下向きに持っていきたいところですが、これは各方面の御協力が引き続きぜひ必要なところでもあります。感染症は動いているということがありますので、それに対してある程度柔軟性を持って取り組むというような考え方も必要ではないかと考えております。

そして、この中間報告の3ページの今後の対応でまとめておられますけれども、やはり一番最初に検査のことがいろいろ話題になると思います。今まで発言させていただいたことと重なりますけれども、検査を誰がどこでどうやって行うか。それから、その判断は誰がやるのかというようなことは重点項目ではないかと思えます。そして、この感染症対策センター、あるいは保健衛生の拠点機能というものも大変よいことだと思うのですが、そこには医療関係者が常駐するような形でないとなかなか判断がつかない部分もあると思えますし、また、それを東京も含めての地元というようなところで全部負担がかからないようにすることはぜひお願いしたいところでもあります。

それから、ワクチンがしばしば話題になっております。今、メディアにも随分いろいろな報道が出ていますが、「ワクチンが利用可能となった場合」と書いてあるので結構だとは思いますが、決して必須事項にはならないだろうと思えますし、それがあつたことを前提条件にしないように取り組んでいただきたいと思います。私は決してワクチンに否定的なことを言っているの

ではなくて、きちんとした評価をした上での使用、それから、特殊な状況での使用ということになるので、そういったようなことを考慮していただければと思います。

以上です。

【国立保健医療科学院健康危機管理研究部 齋藤部長】

今回の中間整理の取りまとめに関しまして、幾つかお話しさせていただきたいと思います。

詳細はこれから詰めていかれると思いますけれども、論点となるポイントは網羅的に書き出されていることと思います。

前回も申し上げましたが、聖火リレー・ライブサイトにおける対策、そして、3密、クラスターが生じやすいような環境を避けるための具体的な対策を盛り込んでいただいております。大会に関連して、こうした行事以外にも密が生じやすいイベントがあり、それぞれ性質や状況は異なりますので、それぞれの状況を注視した上で適切な対策を講じていただければと思います。

また、これも前回申し上げましたが、観客がスタッフや選手と共に感染対策について取り組むという仲間意識を醸成して協力を推進するというような工夫をお願いしたいと思っております。

それから、1点、中間整理の中で、外国の選手が入国されて、大会が終わるまでを意識して書かれていると思いますけれども、大会が終わった後、それから、選手や観客が帰国した後のフォローアップというのも実は重要です。

大きなイベントが日本であって、帰国した後に感染症を発症したパターンの事例について、第1回か第2回にもお話ししましたが、そのように大会で感染して、帰ってから発症されたというような方がいらっしゃった場合には、そのような方をきちんと報告いただいて、大会の関係者等に感染させている可能性、あるいはそこで大きなクラスターが発生した可能性があるということであれば、すぐに調査を進める必要があります。そのような事後のフォローアップ体制も意識して取り組んでいただければと思います。

前回のラグビーワールドカップがあった際にも、開催期間が終わった後に、ワールドカップの観客の方、あるいは選手の方が帰国されてから何か感染症が発生した場合にはきちんと連絡をしてほしいという呼びかけを各国に行っておりました。そういった事例も踏まえて御検討いただければと思っております。

それから、無症状者へのスクリーニング検査については、実効性を伴った手法の検討をお願いしたいと考えております。特に国内の医療体制、公衆衛生体制に負担をかけないということはイベントを行う上でも留意すべき点だということを改めて申し上げておきたいと思っております。不正防止対策とか信頼できる検査結果を得るということはもちろん重要でございますけれども、物的な資源、人的な資源、医療従事者といった方への負担も考慮した効率的な検体採取方法、検査方法を併せて御考慮いただきたいと思います。

私からは以上です。

【内閣官房オリパラ事務局 平田局長】

まず、これまでの5回の議論を経て、本日、中間整理を行う運びとなりました。このことに関し



て、関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

アスリートにつきましては、安全・安心な環境を整え、万全なコンディションで大会を迎えられるよう、徹底した感染防止対策を講ずる必要があります。今後、この中間整理の内容に沿って、早急に具体化を図っていきたいと考えます。

観客の感染防止対策につきましては、観客の安全と地域の安全の両立を図る観点が不可欠であります。国内外の感染状況などを踏まえ、専門家の御意見も踏まえながら、丁寧に議論を進め、具体化を図り、できるだけ多くの観客が入場できるよう準備していきたいと考えます。

アスリートに対する検査、すなわち検査の内容、手順等につきましては大会運営にも関わる大変重要な課題でありまして、専門家の御意見も伺いながら具体化を進める必要があります。また、ワクチンが利用可能となった場合、その活用の可能性についてもよく検討する必要があると考えます。

ホストタウンについては充実した交流を実現させ、大会終了後にも末永く続くレガシーとしなければなりません。感染症対策を万全に講じながらも、ホストタウンと相手国が互いに心を通わせる交流が実施できるよう、受入自治体での準備を国としてもしっかりと支援していきたいと考えます。

聖火リレー・ライブサイトでの混雑・密集を避けるための対策、さらに開閉会式の在り方につきましても、徹底した感染防止を図る観点から、早急に具体化を図る必要がございます。

最後になりますけれども、東京大会を万全な感染症対策の下で成功に導くということは、今後も起こり得る新たな感染症に対し、国が一丸となって取り組む新しいモデルを示すことにもなります。引き続き、関係者の皆様の御協力をお願い申し上げまして、私からの発言とさせていただきます。ありがとうございます。

○閉会にあたり、藤井内閣官房副長官補より発言。

**【藤井内閣官房副長官補】**

今後は、本日取りまとめた中間整理に基づきまして、制度やガイドライン等の策定と詳細を定めるとともに、組織、体制の構築や大会のオペレーションの準備等を進め、必要な対策の具体化に取り組むことといたします。

作業の進捗状況、それから、お話も出ております検査実施方針ですとか、アスリート以外の関係者の出入国条件、あるいは観客上限、外国人観客の防疫措置、外国人観客に対する医療保健体制など、幾つかの大きな課題がございます。これらの検討状況もフォローアップする必要があるがございます。そのため、年明け以降、随時会議を開催させていただこうと思います。よろしく申し上げます。

それでは、今後さらに必要に応じて会議を開催することといたします。

ほかに意見もないようでしたら、時間の関係もございましたので、本日の議事はこれまでとさせていただきます。

本日も会議終了後、プレス対応として、国、東京都、大会組織委員会の事務方から後ほど記者向けのブリーフを行います。資料として、本会議の資料を配付いたします。

本日は御多忙のところ、どうもありがとうございました。

(以 上)